

< あなたの治療について >

外科 - フェスゴ/ERB - 乳腺 - q3w

今回の治療は、フェスゴ/ERB という治療法で、フェスゴとハラヴェン（ERB）という2種類の注射薬を併用して行います。フェスゴ、ハラヴェンは、いずれも腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は3週間が1コースとなっています。各コースの1日目に皮下注射および点滴、8日目に点滴を行います。この治療を3週間（21日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2～7日目	8日目	9～21日目
①	フェスゴ (抗がん剤) 初回 15ml、 2回目以降 10ml	皮下注射		お休み	お休み	お休み
②	デキサート (吐き気止め)	点滴 約30分				
③	ハラヴェン (抗がん剤) 1.4mg/m ²	点滴 約5分				

- ★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなってはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。
- ★ フェスゴ皮下注は太もも部分に皮下注射するため、皮下注射のある日はスカートや、ゆとりのある半ズボンなどをはいてきてください。

◎起りやすい副作用について（頻度 20%以上）

フェスゴとハラヴェンによる

- 白血球減少、好中球減少、リンパ球減少、ヘモグロビン減少、貧血 ●AST、ALT、CK（CPK）の上昇
- 悪心、味覚異常、食欲減退 ●下痢 ●口内炎 ●末梢神経障害 ●発熱 ●疲労、倦怠感 ●脱毛症

◎特徴的な副作用について

フェスゴにおける

- 心機能障害

「息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加」などの症状

- 腫瘍崩壊症候群

「意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ」などの症状

ハラヴェンにおける

- 不整脈（QT 延長等）

「めまい、動悸、胸が痛む、胸部の不快感、脈が跳ぶような感じ」などの症状

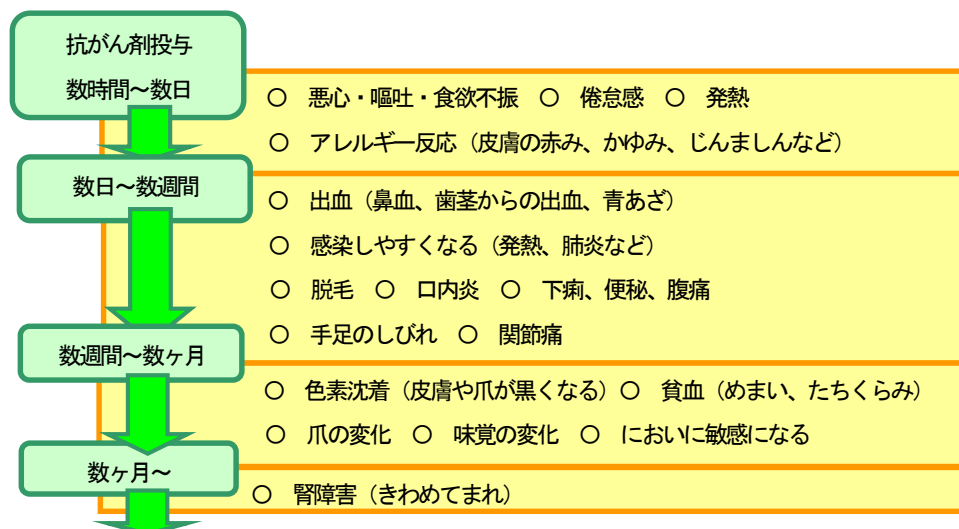
***上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。**

◎副作用の発現時期の目安

*この図は、今回用いられている抗癌剤による副作用だけでなく、他の抗癌剤によって起こる副作用も含まれています。

これらの副作用がすべてあらわれるわけではありません。

また、発現する時期や程度も抗がん剤の種類や患者さんの体質により個人差があります。



◎副作用の対策について

★吐き気・嘔吐、下痢と便秘、口内炎、感染症、出血、貧血、脱毛などの副作用の対策について知りたい方は、資料をお渡しすることができますのでお申し出下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）

まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【フェスゴ】

〔心機能障害〕 息苦しい、息切れ、疲れやすい、むくみ、体重の増加

〔Infusion reaction〕 呼吸困難、意識の低下、意識の消失、まぶた・唇・舌のはれ、発熱、寒気、嘔吐、咳、めまい、動悸

〔過敏症、アナフィラキシー〕 寒気、ふらつき、汗をかく、発熱、意識の低下、口唇周囲のはれ、動悸、息苦しい、全身のかゆみ、喉のかゆみ、かゆみ、じんま疹、発疹

〔骨髄抑制〕 発熱、寒気、喉の痛み、体がだるい、めまい、頭痛、頭が重い、鼻血、歯ぐきからの出血、あおあざができる、出血が止まりにくい、耳鳴り、動悸、息切れ、突然の高熱

〔間質性肺疾患〕 咳、息切れ、息苦しい、発熱

〔腫瘍崩壊症候群〕 意識の低下、意識の消失、尿量が減る、息苦しい、息切れ

〔肝不全、肝障害〕 意識の低下、白目・皮膚が黄色くなる、体がかゆくなる、尿の色が濃くなる、お腹が張る、急激に体重が増える、血を吐く、便に血が混じる（鮮紅色～暗赤色または黒色）、疲れやすい、体がだるい、力が入らない、吐き気、食欲不振

〔腎障害〕 尿量が減る、むくみ、体がだるい

〔昏睡、脳血管障害、脳浮腫〕 突然の意識の低下、意識の低下、突然の意識の消失、意識の消失、刺激に全く反応しない、突然の頭痛、頭痛、突然の嘔吐、突然のめまい、突然しゃべりにくくなる・言葉が出にくくなる・片側の手足が動かしにくくなる、視力の低下、深く大きい呼吸、手足のふるえ、精神の混乱

[敗血症] 発熱、寒気、脈が速くなる、体がだるい

【ハラヴェン】

[骨髄抑制] いつもより体がだるく熱っぽい、皮下出血がある

[感染症（敗血症、肺炎など）] 寒気がする、ふるえを伴う急激な高熱がでる、脈拍が増加する、咳や痰が出る、息切れがする

[末梢神経障害] 手足のしびれ、手足の痛み、感覚が麻痺する

[肝機能障害] だるさ、はきけがする、食欲がない、白目や体が黄色くなる

[間質性肺炎] 発熱、から咳がでる、息苦しくなる

[皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑] 発熱、だるさ、皮膚の赤い斑状発疹

◎ **上記のほかにも副作用が現れることがあります。**

他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。